

感染制御実践看護学講座

感染制御実践看護師育成を目的とし、現在勤務している自施設の業務を継続しながら受講できる教育カリキュラム（週末講義、集中講義、指定施設実習、自施設実習、課題演習など）を編成し、本学の大学院医療保健学研究科（修士課程、博士課程）の感染制御学領域の教育スタッフと、外部の感染制御専門家によって講義が行われます。講義期間中には定期的に課題レポートが課せられ、担当教員より個別指導が行われます。

■施設実習（指定施設・自施設）

指定施設実習は、感染制御を先鋭的に実践している施設において1週間の実習を行います。

自施設実習は、指定施設実習での経験をもとに、自施設の現有組織を活用し日常活動を重視した実習を約2ヶ月間実施します。

■講座修了時

本講座修了試験に合格した看護師には、東京医療保健大学感染制御学教育研究センターから、厚生労働省の感染防止対策加算の施設基準による感染管理に係る専任の看護師として「感染制御実践看護学講座」の修了証を授与すると共に、認定感染制御実践看護師（Certified Professional Nurse for Infection Prevention and Control/PNIPC）の認定証を付与します。

修了生へのフォローアップ体制

本講座修了生へは、フォローアップを目的とした、「医療関連感染情報交換会」を年1回開催し、日々の実践の振り返りとサポートを行います。

修了生からのメッセージ

うえおか みさこ
上岡 美沙子 医療法人社団明芳会 イムス葛飾ハートセンター（東京都 葛飾区）勤務



看護師1年目から感染症で亡くなる患者を見送ることがとても悔しく、ひとりでも多く感染症から患者を守りたい、予防できることは予防したいという思いから、感染制御責任者として1年間にむしゃらに兼任業務を行ってきました。しかし今まで ICN のいる病院で勤務をしたことがなく、専門知識や経験の無さは説得力に欠けました。このままでは患者やスタッフを守れない、とにかく勉強したいという気持ちから受験を決意しました。

毎週の課題から自施設の問題点が明確となり、講義を受けた後すぐにアクションを起こせる環境は、現場スタッフの感染対策への興味や関心に大きく影響していきました。また主体的なリンクナース・リンクスタッフが増えていくことが自分のモチベーションになり、働きながら学ぶメリットを感じる日々でした。

「患者のためスタッフのためになるのか」と常に考えさせる講義をして下さった先生方、また指定施設実習先での現場スタッフへ対応する ICN の姿はとても心に響くものであり、感染領域だけではなく、人として大切なことも学ぶことができた6か月研修でした。

認定証を取得した今、医療関連感染や職業感染予防は力を発揮していかなければならないと使命を感じています。病院長、役職者、全てのスタッフへ説得力のある PNIPC として自施設を引っ張っていきます。

（平成30年度修了生）



私が感染制御について学びたいと思った時期は、日本看護協会の認定教育課程が特定医療行為への移行期間の時期と重なり、自宅から通える認定教育施設がありませんでした。そんな時に、上司から東京医療保健大学を紹介されました。自宅から通学できるという点と、就労しながら学べるところに魅力を感じました。

カリキュラムの中で、学んだ領域毎にレポートの提出があり、座学で学んだ知識をレポート課題にまとめることで、自分の施設の課題と解決策を考える機会となりました。

指定施設実習ではモデルとなる ICN の日常業務を学び、自施設実習では自施設の課題解決に向けて取り組みました。自施設実習では、レポート課題で考えたことを具体的に実践します。その実践は実習が終わり、資格取得後も自分の日常業務として継続できることもあります。

学校では、北海道や広島など全国各地から集まった仲間に出会い、京都から東京へ通学することへの不安はすぐに消えていきました。仲間と共に悩み、解決策を話す機会は貴重な時間となりました。今でも同じ境遇の仲間との情報交換を行ない、私の励みとなっています。

また、資格取得後も更に感染制御について学びを深めたいと思い、東京医療保健大学大学院の修士課程で研究に取り組み、修士号を取得しました。

(平成 29 年度修了生)



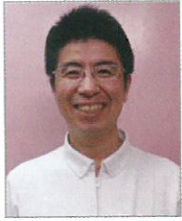
私は、感染対策委員会のメンバーとして、日常の業務と兼務しながら、院内の感染制御の活動を行っていました。活動の中で、アウトブレイクを経験し、私自身の知識、判断力、行動力の不足を痛感し、自信を無くしていました。

そんな時に看護部長から「感染制御実践看護学講座」を紹介して頂き、受講を決意させて頂きました。

講座の講義は、専門的でレベルの高さを感じる内容もありますが、講義の一つ一つが、知識を積み重ねる機会となりました。そして、積み重ねたものが、自施設実習の場面で実際に展開することに繋がっていきます。特に自施設実習は、自施設の感染制御の問題や課題を明確にすることができました。その問題や課題を解決するために何をすべきか、先生方にご指導を頂きながら自施設で展開ができることは、とても有意義なプロセスとなりました。講座修了後の現在においても、自施設実習での経験が道筋となり、現在も継続して取り組んでいます。

受講前は、自信を無くしていた私も、自施設実習が終盤を迎えた頃、同僚から「たくましくなった」と声を掛けられました。講座を通じて、少しずつ自信を持つことができ、私自身成長をすることができたと思っています。これからも、「感染制御実践看護学講座」での学びが、私の感染制御の礎になっていくと思います。

(平成 28 年度修了生)



私はリンクナースを数年勤めていましたがそれ程熱心に活動していた訳ではなく、おそらくクラスの中で一番経験が浅く知識も乏しかったのではないかと思います。しかし、感染制御の先駆者である一流の講師陣による講義はとても刺激的で、私はすぐに感染制御の世界に引き込まれました。

現在、私は精神科病院に勤めています。病室に擦式手指消毒剤を置けなかったり、インフルエンザに罹患してもマスクを着けずに部屋から患者が出てきたりと必ずしも教科書通りの対策が取れるとは限りません。臨床での感染制御には知識をもとにした思考力が求められます。本講座における最新の知見と実践を重視した講義は臨床での感染制御活動に必要な「知識」と「思考力」を身に付けるにはまさにうってつけでした。

「学んで思わざれば即（すなわ）ち罔（くら）し。思うて学ばざれば即（すなわ）ち殆（あやう）し。」

知識や情報を得ても思考しなければ、どう活かせばいいのかわからない。逆に、思考するばかりで知識や情報がなければ、独善的になってしまう。本講座で得た「知識」と「思考力」は感染専従看護師として活動するうえでの羅針盤となるでしょう。

また何より半年間苦楽を共にした仲間との出会いと絆は私のかけがえのない財産となり、私を大きく成長させてくれました。是非、本講座で感染制御の本質を学び、そして最高の仲間を見つけてください。

(平成 27 年度修了生)



私は看護部の委員会活動で感染対策を担当していましたが、院内で感染制御活動をしていくなかで力不足を感じていました。すでに感染制御実践看護学講座を修了した当院の師長から評判を聞いていたこともあり、自分のステップアップになると考え本講座の受講を希望しました。

働きながら勉強できることに加え、自施設の問題を見つめ直して課題を見つけ、その課題について実習し、実際に改善に向けて活動ができることが本講座の一番の魅力だと思います。基礎から素晴らしい先生方に教えていただくことができ、学んだ多くのことをすぐ自施設実習で活かすことができる環境は本当に恵まれていました。そしてひとりひとりに大変丁寧な指導をしてくださり、感謝しております。

また色々な場所から集まった一緒に学んだ仲間とは現在も連絡を取り合い、相談したり情報交換したりしています。そのような仲間と出会えたことも素晴らしい財産となりました。

目的意識を持って学べたこの6ヶ月間は大変有意義なものでした。修了した今も、講座で立案した感染制御プログラムに沿って活動を継続したり、分からないことなどは授業の資料を引っ張り出して確認したりしています。この6ヶ月間は大変でしたが、自分の感染制御を考える力を養うことができたと感じます。(平成 26 年度修了生)